

第1章 環境に優しいまち西区

第1節 自然に恵まれたまち

西区は、三角山や手稲山、五天山など、周りを山々に囲まれた緑豊かな区です。

また、区を中心を流れる琴似発寒川は、手稲山を源流とした河川で、川沿いには緑地や公園が整備されています。上流にある平和の滝や川沿いの西野ふれあい広場などでは、水と親しみながら気軽に遊ぶことができ、区民の憩いの川として親しまれています。

こうした自然に恵まれた西区では、季節ごとに自然の変化が感じられるとともに、秋には琴似発寒川にサケやサクラマスが遡上するなど、豊かな生態系を間近で見ることができます。



春の発寒河畔公園



夏の琴似発寒川



秋の農試公園



冬の五天山公園



第2節 環境活動に熱心なまち

緑豊かな自然を守るために、西区では、地域住民が主体となり、以下のような環境活動が、積極的に行われてきました。

琴似発寒川の一斉清掃

魅力あるきれいな琴似発寒川を守るために、春と秋の年2回、琴似発寒川と左股川の河川敷、計12キロの区間を清掃しています。この清掃活動は、区内全ての連合町内会からなる実行委員会が、平成2年から実施しているもので、町内会のほか、地元企業や学校など、毎回、約2,000人が参加しています。



春の清掃活動

やまめの稚魚放流・サクラマス遡上観察会

「私たちの故郷の川として将来とも、より親しめるように守っていきたい」（平成21年・稚魚放流事業実行委員会発行『稚魚放流事業20周年記念誌』より）という思いから、西野地区の住民が「琴似発寒川を守る会」を結成し、平成元年に初めて、琴似発寒川の上流の平和湖に、10,000匹のやまめやニジマスなどを放流しました。現在では、区内全ての連合町内会が参加し、6会場（※）において約29,000匹のやまめの稚魚が放流されています。

また、毎年秋になると、放流されたやまめの稚魚が成魚サクラマスとなって、母なる川である琴似発寒川に遡上する姿が見られ、小学生を対象に観察会が実施されています。

※やまめの稚魚放流会場

（平成26年度現在）

平和湖会場、福井えん堤会場、西野ふれあい広場会場、
仲よし橋会場、かもめ橋会場、いたどり橋会場



サクラマスの遡上観察会



やまめの稚魚放流

西区アダプト・プログラム

北海道内で初となる「アダプト・プログラム(※)」がスタートしたのは、平成13年5月。琴似栄町通のごみ散乱対策として、琴似商店街振興組合が始めました。以降、活動に参加する団体は増え続け、平成27年3月現在、39団体が参加し、清掃活動のほか、電柱に貼られた違反広告物の除去や、雪国である札幌ならではの活動として、冬道の転倒防止のための歩道への砂まき活動を行っています。

※ アダプト・プログラム

地域住民、学校、企業と行政が互いに役割分担を決めて、道路や公園などの公共の場所の清掃を行う活動のこと。なお、アダプトとは「養子縁組」の意味で、「自分の子どもを慈しむように愛情をもってお世話していこう」ということから名付けられたもの。



陵北中学校による清掃活動

キャンドルナイト

琴似地区では、町内会、商店街、小学校などが協力して「キャンドルナイト(※)」を実施しています。毎年、琴似小学校5年生が、手作りキャンドルとポスターを琴似商店街各店舗や公共施設等に配布するほか、地域コミュニティFM番組に出演し、ライトダウンの呼び掛けを行っています。夏至の日には、琴似商店街の各店舗で一斉にライトダウンが行われ、省エネルギーに対する意識啓発のほか、街がキャンドルの明かりに包まれ、魅力ある景観づくりにも貢献しています。



小学生が書いたポスターが飾られた店舗

※ キャンドルナイト

1年で最も昼の時間が長い夏至の日の夜に、家庭や商店などで自主的に電気を消して、キャンドルの明かりの下で、省エネルギーや大気環境保全について考えながら過ごす、全国的なイベント。

エコタウンはっさむ

発寒地区では、町内会や商店街、子ども会、小学校などが連携して平成20年7月にエコタウンはっさむ実行委員会を設立し、公園内の落ち葉の堆肥化や、使用済み天ぷら油の回収とリサイクル体験(せっけん・ろうそく作り)、環境施設見学会など、環境を切り口としたにぎわいのあるまちづくりに取り組んでいます。

こうした活動が認められ、平成22年11月に「第2回さっぼろ環境賞」の循環型社会形成部門において札幌市長賞を受賞し、現在も、発寒まちづくりセンターを拠点に、大人だけではなく、子どもたちも企画・運営に主体的に関わり、地域密着型の環境活動を進めています。



廃食油を使ったせっけん作り